川合研ゼミ資料

M1 伊戸川 暁

1998 年 6 月 3 日

近頃雑用に追われてまともに研究を進められなかったので、アイデアスケッチで勘弁して下さい。`m(__)m`

1 目的

最終目標 (いかにも無理っぽいが): network 上の電子的情報の長期的保存のための手法の確立

- できれば、software distribution の形で結実させたい
- これまでは user として公共性を持つ団体 (官公庁など) を漠然と想定していたが、個人用でやってみるのも面白いような気が。

2 問題の諸側面

その殆んどは自分で勝手に考えたに過ぎないが、以下のような諸問題があると考えられる。

- 保存形式の問題
- 認証/security の問題
- etc...?

全てを対象にするのは明らかにつらそうだが、以下に挙げる全ての部分が絡み合っているのが悩ましいところ。

2.1 保存形式の問題

2.1.1 データの更新

データは、hardware はおろか、software(apprication) よりも長生きする (してしまう) であろう。→媒体の寿命・速い技術革新という背景

Refreshing/Migration

2.1.2 異版管理

文書は、位置と時刻で指定できるようにすべきだろう。
継続的に update される文書をどうすればよいか?

2.1.3 その他

Archival な directory とそうではない directory の区別?

2.2 認証/security の問題

デジタルな情報は改変が容易→改変から情報を保護する機構の必要

2.2.1 情報の保証のレベル

- 情報の存在の保証
- 情報の内容の保証
- 情報の流通範囲の保証

2.2.2 第三者の二義性

監視者　「外部の目」をシステムに取り込むことはできないか?

剽窃者　情報に対して何をするか分からない→出所に関する情報を付加する必要性

2.2.3 誰を信じればいいのか?

Authority を置くというのがまっとうな解決策なのだろうが……。

2.2.4 その他

public な情報と private な情報との弁別の困難
→各人に任せるか? or 何らかの facility を用意するか?

3 現況

未だsurveyの段階に留まっている。

現在、‘Preserving Digital Information’

(`http://lyra.rlg.org/ArchTF/tfadi.index.htm`)

という論文(というかreport)を読んでいるのだが、今まで自分が一人で考えていたことがだいたい載っている上に、初めて出会った概念まで登場してくる。

archivingの技術に関する良書・良論文を捜索中。

archive関連の話があるそうなので、出席の予定。

去年の今頃よりは、関連領域への関心が高まってきている(ような気がする)。:)

いずれにせよ、実装に入るのはまだまだ先になりそう。